



# 地域医療の確保と自治体病院を考えるセミナー

## 地域医療確保のための処方箋

### 自治体病院と住民、地域づくりのヒント

**入場無料**  
どなたでも  
ご参加いただけます

2025年には団塊の世代が75歳以上となるなど、超高齢社会に加えて人口減少社会を迎え、「地域が立ち行かなくなる」との心配な声が増え、地域の存立に果たす地域医療の重要性がクローズアップされています。

地域包括ケアを担う重要な役割である地域医療において、かかりつけ医としての身近な医療、広域的・専門的な医療の多くを自治体病院が担っています。

地域医療を守り育てるために、病院が為すべきことは何か、地域住民がどのように地域医療の確保に関わっていくか、病気やケガの時の大切なセーフティネットである自治体病院と地域医療について、皆さまと一緒に考えていくことを趣旨に、本講演会を開催します。

【講師】<sup>いせき ともとし</sup>伊関 友伸 氏  
城西大学 経営学部マネジメント総合学科 教授

【講師プロフィール】

東京都立大学法学部卒

東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了(行政学)

1987年 埼玉県庁入庁

総務課、計画調整課、県立病院課、精神保健総合センター等歴任

2004年 城西大学 経営学部マネジメント総合学科 准教授

2011年から現職

総務省「地域医療の確保と公立病院改革の推進に関する調査研究会」委員として調査報告書(2017年10月)の取りまとめに尽力

【日時】8月24日(金) 午後6時30分 【場所】はびあ八雲 コミセンホール(1階)

【主催】八雲総合病院



伊関 友伸 氏

【問い合わせ先】八雲総合病院経営企画課 ☎0137-63-2185



## ちょっと知ってね！総合病院

～私たちの知識がお役に立てれば嬉しいです！～

### 【糖尿病の検査】



臨床検査技師  
<sup>はしもと みか</sup>橋本 美佳

糖尿病の診断や治療指針の検査には、血糖値とHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)があります。

血糖値は血液中のブドウ糖の濃度で、食事や運動などの影響を受けて常に変動します。基準値は空腹時血糖で70～110mg/dlです。

HbA1cは過去1～2か月の血糖値の状態を表します。その間の血糖値の平均が高いとHbA1cは高くなり、平均が低いとHbA1cも低くなります。糖尿病治療の目標値として活用されます。基準値は4.6～6.2%です。

随時血糖が200mg/dl以上やHbA1cが6.5%以上では糖尿病が疑われます。糖尿病は早期発見・早期治療が重要です。また、合併症にならないように異常が見られたら必ず医療機関を受診し、適切な血糖コントロールを目指しましょう。

また、4月から実施しているワンコイン健診(糖尿病)でも、血糖とHbA1cを検査することができます。

【問い合わせ先】八雲総合病院医事課 ☎0137-63-2185